

第16章 福島県立博物館

第1節 概要

1 運営の概要

福島県立博物館は資料収集・常設展・企画展・調査研究・教育普及事業を中心に内容の充実を図っている。

今年度の博物館の活動の概要は次のとおりである。

2 運営協議会

(1) 委員

学校教育	中野 みどり	郡山市立喜久田小学校長
	遠藤 晴美	いわき市立三阪中学校長
	山内 正之	県立会津学鳳中学校・高等学校長
社会教育	遠藤 俊博	福島県文化振興財団理事長
	佐藤 典子	いわき市立中央公民館庶務係長
学識経験者	白井 美津子	会津若松市教育委員会委員
	佐藤 彌右衛門	合資会社 大和川酒造店代表社員
	長尾 修	公立大学法人会津大学短期大学部社会福祉学科 非常勤講師
	新妻 玲子	家庭教育インストラクターいわきの会
	庄司 梓	公募委員

(2) 会議

ア 第1回	平成26年6月6日(金)
議題	①年間催し物スケジュールについて ②県立博物館の使命の一部改正について ③中期目標の達成状況及び第1期の総括について ④次期中期目標について ⑤入館状況について ⑥震災後の博物館の取り組みについて
イ 第2回	平成27年2月27日(金)
議題	①平成26年度事業の実施状況について ②平成27年度事業計画について ③はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトについて ④ふくしま震災遺産保全プロジェクトについて

第2節 調査研究事業

1 展示資料調査研究

将来の博物館リニューアルに向けて、新たな研究成果と展示資料の収集のため、考古・歴史・民俗・美術・自然の各分野がテーマを設定し、調査を実施している。平成26年度は、以下の3テーマで調査研究を進めることとした。

(1) 新生代植物化石の再評価

ア 趣旨

当館自然分野の収蔵資料のなかで最も重要なものの一つに鈴木敬治植物化石コレクションがある。このコレクション

は(故)鈴木敬治福島大学名誉教授が当館に寄贈されたもので、その内容の大部分は福島県内産の新生代植物化石である。すでにこれらの標本の10,000点以上が鑑定、整理されてきたが、最近、産地・地質時代にまとまりのある標本に関して、ボランティアの力を借りながら、新たに1,000点以上の整理を進めることができた。そこで、これらについて鑑定内容を確認した上で成果を論文として公表し、コレクション整理の成果をさらに充実させたい。

イ 概要

研究の内容として、郡山市熱海町地域における片平層、および金山町猿倉沢地域における上井草層の化石産地確認調査を行うとともに、付近の地質概要を把握する。また、すでに収蔵されている同地域の植物化石について、同定内容の再確認、標本写真撮影、未登録標本のラベリングおよび登録等を順次行い、展示公開や博物館紀要への執筆等により成果を公表する。

平成26年度は、金山町における地質調査を2回、これに関連する只見町野々沢における植物化石産地の地質調査を1回行った。また、国立科学博物館研究主幹の矢部淳氏を招き、片平層産植物化石の同定内容について確認と修正を依頼した。

(2) 会津藩社倉制の研究

ア 趣旨

江戸時代には備荒貯蓄や米価調整のため、各藩や代官所においてさまざまなシステムの構築が試みられた。その備荒貯蓄政策の代表的なものは会津藩の例で、保科正之がはじめた社倉や社跡米の制度である。この制度は藩政時代から全国的にも注目されたが、その詳細について、系統的な研究はあまり行われていない。よって各種文献の調査等を行い、制度の具体的なシステムについて明らかにすることを旨とする。

イ 概要

社倉の運用方法などを示す具体的な基礎資料を調べる中で、「社倉方一式」という資料の存在が判明した。この資料が会津藩の社倉米の制度やその配分を具体的に知ることに由来する貴重なものであったため、平成26年度は調査内容を紀要で公表した。平成27年度も関連資料の調査を継続し、展示等で公開する予定である。

(3) 山口弥一郎調査資料の研究

ア 趣旨

山口弥一郎(1902-2000)は旧・新鶴村に生まれ、東北の地理学・民俗学研究に多大な業績を残した。近年では東日本大震災を経て著書『津浪と村』(1943年刊)が復刊され、津波災害と集落移動に関する研究が全国的に注目を集めている。しかし、磐梯山慧日寺資料館(磐梯町)に一括して収蔵されている山口が残した調査ノートや写真、蔵書などは、

体系的な整理や目録作成にまで至っていない。本研究では磐梯町の協力のもと、同資料の整理・調査を進めることで、山口弥一郎の調査研究を見直し、人文科学的側面からの災害研究の新しい方向性を探っていく。

イ 概要

平成 26 年度は、本研究を進めるにあたっての調査資料の管理や整理等について、磐梯町との協議を進めた。その結果、平成 27 年 3 月 31 日付で『山口弥一郎旧蔵資料の整理と活用に向けた調査研究』のための協約書を磐梯町長と当館館長の間で取り交わし、相互に協力して研究を進めることになった。実際には 27 年度から資料の借用と整理を進めていくことになる。

2 その他の調査研究事業

(1) 古文書整理事業

古文書類の調査・研究は、福島県の歴史をさぐるために欠かせない。しかし古文書を歴史資料として活用するためには、1 点ずつ整理を行い、表題・年代・形態・法量・状態などのデータを採取した上で、博物館資料として登録する必要がある。このため、購入・寄贈・寄託などにより当館で受け入れた古文書の整理作業を行っている。また古文書原本を状態よく保存し後世に伝えていくため、古文書をマイクロ撮影し、原本のかわりに閲覧用に提供している。

平成 26 年度は、昨年度に引き続き松崎達夫家寄贈資料の整理作業を継続して実施したほか、近年受け入れた小口の資料整理作業を行った。また整理済の未登録資料（築田家追加寄託資料他）を I.B.M（更新された資料管理システム）に登録するため、入力作業を行った。マイクロ撮影は、「特定医療法人明智会寄託資料」を継続して行ったほか（今年度で撮影終了）、新たに築田家追加寄託資料の撮影を行った。

第 3 節 資料収集事業

1 収集展示委員会

博物館の収集資料、企画展の計画等についての審議のため、12 名の委員を委嘱している。

(1) 収集展示委員会委員

氏名	役職名	備考
有賀 祥隆	東北大学名誉教授	委員長
野沢 謙治	郡山女子大学短期大学部文化学科教授	副委員長
入間田宣夫	一関市博物館館長	委員
大石 雅之	東北大学総合学術博物館協力研究員	委員
岡田 清一	東北福祉大学教授	委員
佐々木利和	北海道大学アイヌ・先住民研究センター客員教授	委員
設楽 博己	東京大学大学院人文社会系研究科教授	委員
原田 一敏	東京芸術大学大学美術館教授	委員

三上 喜孝	国立歴史民俗博物館准教授	委員
村川 友彦	福島県史学会会長、元福島県歴史資料館課長	委員
柳田 俊雄	東北大学名誉教授	委員
渡邊 一雄	福島県考古学会顧問	委員

(2) 会議

ア 日時：平成 27 年 3 月 27 日（木）

- イ 議題 ①平成 26 年度事業の実施状況について
②平成 27 年度事業計画について
③平成 27 年度の企画展等について
④その他

文化財レスキュー事業の実施状況について

2 受贈・受託

(1) 歴史資料

ア 受贈

鉄橋工事写真	1 件	個人
砲弾	2 件	個人
板かるた	1 件	個人
スタジオ撮影用大型カメラ	1 件	個人
美術資料ほか	41 件	個人
小倉百人一首 板かるた	1 件	個人
最上三十三所御礼集	1 件	個人
中村北潮筆 板かるたほか	3 件	個人

イ 受託

本田家文書	1 件	個人
本田家文書	1 件	個人
薬師寺如来坐像ほか	2 件	個人
会津暦 等	43 件	個人

(2) 美術資料

ア 受贈

掛軸	2 件	個人
萩の宮蒔絵手箱ほか	37 件	個人

イ 受託

遠藤香邨筆「富士十二景図屏風」ほか	2 件	個人
竹内澤與筆「山水図」、大野泉祐筆「朱達磨図」	2 件	個人
田楽面「伊邪那伎命」ほか	5 件	個人
加藤遠澤筆「鐘植図」	1 件	個人

(3) 民俗資料

ア 受贈

雛人形	1 件	個人
オシンメイサマ	1 件	個人
「子安観世音」提灯ほか	2 件	個人
膳写版ほか	10 件	個人
傘鉾（カサボコ）	2 件	個人
枕屏風ほか	2 件	個人
座敷旗	1 件	個人
雛人形ほか	6 件	個人

(4) 考古資料

ア 受 贈
岩谷遺跡出土 土星模造品ほか 2件 個人

イ 受 託
元屋敷遺跡出土資料 6件 三島町教育委員会教育長
古墳時代直刀（刀身・鏢・鏝）ほか 2件 個人

（5）自然資料

ア 受 贈
現生貝類標本ほか 357件 個人

福島県内各地鉱山の鉱石 1件 個人

イ 受 託
三葉虫ほか 27件 双葉町教育委員会教育長

3 購 入

（1）美術資料

竹内澤興筆「山水図」 1件

（2）考古資料

江平遺跡出土木簡（レプリカ） 2件

（3）図書資料

ア 一般図書

考古分野 13冊、歴史分野 55冊、民俗分野 38冊、自然分野 73冊、保存分野 17冊、その他 1冊 計 197冊

イ 定期刊行物 32種類

第4節 保存管理事業

1 資料の収蔵

（1）博物館資料

資料受入れ時点における収蔵資料件数の、現在までの累計を示す。件数は概数であり、「一括」で受け入れた資料も1件と数える。

分野	件数	備 考
考古	20,396	土器・石器・金属器ほか
民俗	13,189	生活・生業・交通・信仰・芸能用具ほか
歴史	21,824	書籍・文書資料ほか
美術	6,248	絵画・彫刻・工芸資料ほか
自然	49,101	化石・岩石・鉱物ほか
合計	110,758	

（2）図書および映像資料

ア 収蔵図書数 (平成27年3月31日現在)

考古分野：23,811冊 民俗分野：4,512冊

歴史分野：9,753冊 美術分野：3,803冊

自然分野：15,997冊 保存分野：1,635冊

その他：55,776冊 合計：115,287冊

イ 収蔵映像資料数 (平成27年3月31日現在)

収蔵映像資料総数：1,370点

2 登録・整理

（1）資料管理システムの運用

平成25年度中に、それまでのサーバークライアント方式による資料管理システムに換えて、新たにASP方式の博物

館資料管理専用システムである早稲田システム開発株式会社製 I.B. Museum SaaS を導入した。新システムは、県教育委員会の FKS 回線を介してインターネットに接続した端末パソコンより使用するものとし、これまで使用してきた資料管理システム専用 LAN 回線は FKS 回線に一本化した。

新システムでは、データの一括登録や一括修正が可能となるなど機能が向上した。また館内におけるサーバーの設置が不要となり、経年的なランニングコストが削減された。更に、インターネット上での資料情報の外部公開が可能となり、サービス機能が向上した。

本年度は、プログラムの初期不良の修正、資料の登録および資料情報の外部公開に関する試験的運用の3点に重点的に対応する方針で使用を開始した。

プログラムの初期不良についてははかばか修正を進めたが、未だに修正完了に至っていない。その原因は、旧システムの膨大な情報項目をすべて完全に移植したため項目の構成が煩雑となり、使用中に初めて発見される書式や登録方法の設定ミス等があるためである。また同様の理由から、項目を再構成しないと登録作業の煩雑さを解決できない部分が生じており、その一部は有償の改修が必要となる。資料の登録および資料情報の外部公開については次項で述べる。

（2）資料の登録・資料情報の外部公開

整理が終了した資料のデータを資料管理システムに入力し、資料の登録を行った。本年度は、上で述べた初期不良等を修正しながらの試験的運用となったため、登録資料数は多くなかった。表中の数値は登録済み資料の件数を示す。

資料情報の外部公開については、本年度7,716件を公開して平成26年度中期目標の評価指標を達成したものの、分野により公開数にばらつきがあるほか、公開画面の検索方法に修正すべき点があるなど、課題が生じている。しかしシステムがASP方式であるため実施可能な修正には制限があり、改良には相当の工夫と時間が必要である。

データベース入力済みの登録資料の件数を示す。

(平成27年3月31日現在)

分野	資料データ入力件数 (平成26年度)	登録資料件数 (累 計)
考古	15	11,649
民俗	0	13,610
歴史	26	36,593
美術	1	6,219
自然	614	24,259
合計	656	92,330

（3）ボランティア

博物館資料の整理のため、次の通り資料整理ボランティアを受け入れ、資料の整理を行った。

ア 自然資料整理

桑原 功 野外調査での協力 金山町5月、10月、各1日
自然史講座「化石をさがそう」での協力 9月
伊達市

星総一郎 自然史標本約 600 点整理 延べ 20 日

イ 古文書整理

古文書整理ボランティア登録者のうち 13 名が延べ 66 日参加し、松崎達夫家文書の整理作業（表題・年代・法量などのデータ採取）を行った。終了したのは 281 点。参加者は穴澤良文、五十嵐晴日子、大堀義子、小熊和子、笠間せい子、川原太郎、菊池フミ子、小関栄助、佐藤敏子、佐藤紀子、佐野喜惣次、鈴木清二、星弘明の諸氏。

3 保存

(1) 防虫作業等

ア 保存環境調査

常設展示室・収蔵資料展示室・企画展示室、収蔵庫（一時、第 1～第 6 収蔵庫）、エントランスホール、体験学習室、講堂、事務室、会議室、研究室、図書室、空調機械室など主

4 貸出

(1) 博物館資料

資料名	貸出先	期間	展覧会名
日新館教授の図	若松城天守閣郷土博物館	5月15日～7月15日 (展示期間)	特集展示「むかしの会津～教育編」
泉崎村原山1号墳出土埴輪（琴を弾く人） 泉崎村原山1号墳出土埴輪（楯を持つ人） 泉崎村原山1号墳出土埴輪（円筒） 泉崎村原山1号墳出土埴輪（朝顔）	公益財団法人郡山市・学び振興公社	7月12日～8月31日 (展示期間)	第1回企画展「ふくしま埴輪物語」
桐蒔絵鼓 夕顔蒔絵鼓 紫檀能尽蒔絵煙草盆 藤蒔絵提重 白虎隊自刃図 錦絵「会津軍記」 錦絵「会津戦争記聞」 家訓 短冊「大君の…」 書「幾人の…」	新宿歴史博物館	9月13日～11月24日 (展示期間)	特別展「高須四兄弟-新宿・荒木町に生まれた幕末維新-」
絹本著色飯豊山山道絵図 紺紙金泥法華経	米沢市上杉博物館	11月1日～11月30日	特別展「置賜の山岳信仰」
カバラミプ（衣服・木綿） マキリ（刀） エムシアツ（刀掛け帯） イクバスイ5点 以上会津民俗館寄託 リイシリ島絵図 黒曜石 草鞋 小刀鞘	公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構	9月16日～12月12日 (貸出期間)	アイヌ工芸品展「アイヌの工芸-東北のコレクションを中心に-」帯広会場
古絵馬（上宇内薬師堂奉納品）	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	10月18日～11月30日	企画展「祈りの里会津-霊場とその信仰-」

要なスペースについて昆虫、室内塵埃中昆虫、空中浮遊菌、空中浮遊塵埃数、気相（アルカリガス定性、ホルムアルデヒド、酢酸、アンモニアの気中濃度）及び温度、湿度、照度等について調査を行った。

調査は季節による生息害虫等の状況を確認するため、6月11日～7月10日、11月5日～11月22日の2回にわたり実施した。

イ 燻蒸庫による燻蒸

第1回（7月1日）～第4回（3月24日）まで、新収蔵資料および企画展出品資料などを中心に約 589 件の燻蒸を実施した。

中際遺跡土笛	三島町交流センター 山びこ	10月22日～11月30日 (一時返還)	三島の遺跡展—縄文の工房と戦国山ノ内氏の城館—
流麿寺跡出土金銀象嵌鉄剣	棚倉町立図書館多目的ホール	11月28日(展示日)	流麿寺跡国史跡指定記念講演会 現地説明会特別展示
土津神社告文(文久二年閏八月五日付)	茨城県立歴史館	平成27年2月7日～ 3月22日	特別展Ⅱ「徳川慶喜」
十二天図(当館蔵・恵日寺旧蔵)旧軸木のうち延宝三年銘・文政九年銘	磐梯町磐梯山慧日寺資料館	平成27年4月1日～ 11月30日	磐梯山慧日寺資料館常設展

(2) 写真資料

全99件

歴史：86点 美術：36点 考古：57点 民俗：なし 自然：3点 計182点

第5節 展示事業

1 常設展示

総合展示と部門展示からなる。総合展示は、原始から現代までの福島県の歴史を通観し、人々のくらしを時系列に沿って展示している。原始・古代・中世・近世・近現代・自然と人間の6つのテーマで構成される。部門展示は、テーマ性の高い専門的な展示であり、民俗・自然・考古・歴史美術の展示に分かれる。

平成21年度から、常設展示室内において、以下のようなテーマ展・ポイント展を実施している。

(1) テーマ展

常設展エリア内において、特定のテーマを設定した小・中規模展示を「テーマ展」として実施した。本年度が6年目である。全8回実施。

ア「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」(部門：考古展示室)平成25年度～平成26年5月11日(日・祝)

イ「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト〈福島写真美術館プロジェクト〉成果展」(部門：歴史・美術展示室)4月15日(火)～5月25日(日)

ウ「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」(部門：考古展示室)6月17日(火)～平成27年5月10日(日)

エ「はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト〈岡部昌生フロッタージュプロジェクト〉成果展」(部門：歴史・美術展示室)6月7日(土)～7月13日(日)

オ「相馬家の婚礼道具—南相馬市同慶寺所蔵の漆工品—」(部門：歴史・美術展示室)7月19日(土)～8月24日(日)

カ「現代「漆・歴史」考2014—渡邊晃—による『漆版—』」(部門：歴史・美術展示室)8月30日(土)～10月5日(日)

キ「けんばくの宝2014」(部門：歴史・美術展示室)12月20日(土)～平成27年2月1日(日)

ク「徹底解剖！会津板かるた」(部門：歴史・美術展示室)平成27年2月7日(土)～3月29日(日)

(2) ポイント展

常設展エリア内において、特定資料の公開を目的とした小規模展示を「ポイント展」として実施した。本年度が6年目である。全21回実施。

ア「安積伊東一族ゆかりの鰐口」(総合：中世展示室)4月1日(火)～5月30日(金)

イ「喜多方市泉福寺の大日如来像」(総合：古代展示室)4月5日(土)～5月6日(火)

ウ「老中奉書でみる会津藩の台場警備」(総合：近世展示室)4月19日(土)～5月30日(金)

エ「読み解き「戊辰戦記絵巻物」」(総合：近・現代展示室)4月19日(土)～平成27年2月1日(日)

オ「近藤家の婚礼用具」(部門：民俗展示室)5月8日(木)～7月2日(水)

カ「描かれた養蚕」(部門：民俗展示室)7月17日(木)～9月3日(水)

キ「伝単—連合軍のまいたピラー—」(総合：近・現代展示室)7月18日(金)～8月22日(金)

ク「博物館の壁が語る日本列島の誕生」(エントランスホール東側)7月19日(土)～8月29日(金)

ケ「ふくしまの火炎型土器」(総合：原始展示室)7月23日(水)～平成27年3月15日(日)

コ「これも弥生土器!？」(総合：原始展示室)7月23日(水)～平成27年3月15日(日)

サ「磐梯山とジオパーク」(総合：「自然と人間」展示室)8月21日(木)～9月17日(水)

シ「福島を空から眺めてみよう!」(総合：近・現代展示室)9月13日(土)～11月7日(金)

ス「王様の玉飾り」(総合：古代展示室)9月2日(火)～平成27年3月15日(日)

セ「約束の音色～聖武と皆麻呂」(総合：古代展示室)9月2日(火)～平成27年3月15日(日)

ソ「富岡層の貝類化石」(部門：自然展示室)10月11日(土)～11月20日(木)

タ「会津藩校日新館の教育」(総合:近世展示室)10月18日(土)~11月14日(金)
 チ「桶づくり職人の道具」(部門:民俗展示室)11月6日(木)~12月10日(水)
 ツ「地球黎明期の岩石」(部門:自然展示室)11月21日(金)~12月26日(金)
 テ「火をめぐる昔の道具~明かりと暖房~」(部門:民俗展示室)12月18日(木)~平成27年2月4日(水)
 ト「火鉢となった版木たち」(総合:近世展示室)12月27日(土)~平成27年1月30日(金)
 ナ「ふくしまの凧」(部門:民俗展示室)平成27年2月13日(金)~3月18日(水)

2 企画展示

歴史・美術・民俗・考古・自然の各分野が単独もしくは協力し企画した館のオリジナルなテーマに基づいた展示を中心に、期間を限定して開催している。

(1) 春の企画展「写真展 東北一風土・人・暮らし」

ア 会期 平成26年4月19日(土)~5月18日(日)
 開館日数:26日間

イ 会場 福島県立博物館企画展示室

ウ 入館者数 1,226人

エ 担当学芸員 美術分野:川延安直・小林めぐみ

オ 趣旨

日本の写真評論の第一人者として活躍している宮城県出身の飯沢耕太郎氏の監修のもと、東北にゆかりのある、しかし世代も表現もさまざまな10組の写真家による作品で構成。過去の作品から、現在進行形の作品までを同時に展示し、過去・現在・未来を貫く個性的な写真家の視点を紹介した。1950~60年代の農村を撮影した千葉禎介、小島一郎、東北各地の民俗儀礼や祭りなどを追った芳賀日出男、内藤正敏、田附勝、自らの個人史と故郷の光景を重ね合わせる大島洋、畠山直哉、東北の美しい自然にカメラを向ける林明輝、縄文時代の遺跡を通じて日本人の精神の起源を探る津田直による作品、そして伊藤トオルをリーダーに宮城県仙台市の「無名の風景」を集団で撮影した「仙台コレクション」のシリーズである。

東日本大震災後、被害のようすは多くのメディアで報道されたが、本展示会は、被害状況や復興のようすをレポートするものではなく、さまざまな年代の、異なる表現をもちいた写真家の視点を通して奥深い東北の魅力を海外の人に伝えることを目指した。

国際交流基金によって企画された本展は、北京・イタリア・オーストラリアなど5年間40都市を巡回し、東北の豊かな自然や独特の祭りのようすを世界に発信している。

今回は一時日本に里帰りする機会に福島県立博物館と岩手県内で公開されることになった。

カ 展示構成

千葉禎介・小島一郎・芳賀日出男・内藤正敏・大島洋・林明輝・田附勝・仙台コレクション・津田直・畠山直哉

キ 出品点数 10作家、123点

ク 関連事業

記念対談「縄文の再生「東北一風土・人・暮らし」展を巡って」

講師:飯沢耕太郎(本展監修者・写真評論家)×田附勝(写真家)×赤坂憲雄(福島県立博物館長)

日時:4月19日(土)13時30分~15時

会場:講堂

コ 成果と課題

東北をテーマにした総合的写真展は初めて取り扱う展示会であり、また飯沢耕太郎氏の選抜によるきわめて質の高い作品群は東北の魅力を伝えてくれた。海外での日本文化発信のための展示会であったが、作品の一時帰国の際に当館での展示が実現し国際交流基金との連携が生まれたことは成果とできる。

アンケートには、1950年代の懐かしい生活を思い出した、会津で見ることができて良かった、東北が身近になったなどの感想があった。反面、照明・展示・解説への不満も見受けられ、作品の質に展示室がついていない状況がある。

(2) 夏の企画展「アイヌの工芸—東北のコレクションを中心に—」

ア 会期 平成26年7月19日(土)~9月15日(月祝)
 開館日数:52日間

イ 会場 福島県立博物館企画展示室

ウ 入館者数 4,078人

エ 担当学芸員 歴史分野:阿部綾子 民俗分野:内山大介

オ 趣旨

本展は公益財団法人アイヌ文化振興・研究推進機構(アイヌ文化財団)との共催事業である。同財団は毎年、アイヌ文化振興のため、北海道内外の博物館・美術館と連携してアイヌ工芸品展を開催しており、本展もその一環で、本年は当館と帯広百年記念館を巡回した。

今回は東北地方での開催となったことから、主に東北地方で収蔵されているアイヌの工芸品や民具を中心に展示することをコンセプトとし、当館に寄託されている渡部つとむコレクションの紹介も行った。また福島県と北海道(蝦夷地)やサハリン(樺太)を結ぶ資料として、会津藩の樺太出兵や同藩による蝦夷地分領支配に関わる資料もあわせて出品し、会津藩とアイヌとの関わりにも注目した。

カ 展示構成

(ア) 装う

(イ) 暮らす

(ウ) 祈る

(エ) 会津藩と蝦夷地・樺太

キ 展示資料総数 163点

ク 主な展示資料

(ア) アットウ。(樹皮繊維の衣服)

(イ) テタラペ(イラクサ繊維の衣服)

(ウ) チヂリ・カバラミッ・ルウンペ(木綿の衣服)

(エ) 蝦夷錦

(オ) ニンカリ・タマサイなど装飾品

(カ) 盆や煙草入れ、マキリなど木製品

(キ) 鯨形・サバンベ(冠)・イクバスイなど祈りの道具

(ク) 会津藩樺太出陣絵巻・蝦夷実景・標津番屋屏風など
会津藩関係資料

ケ 関連行事

(ア) オープニングセレモニー(カムイノミ)

日時：7月19日(土)9時40分～10時20分

会場：福島県立博物館エントランスホールほか

祭司：野本久栄氏

北海道千歳市在住伝承者：野本敏江氏

(イ) ギャラリートーク

日時：①7月19日(土)10時30分～11時30分

②9月15日(月祝)14時30分～15時30分

会場：福島県立博物館企画展示室

講師：①標津町教育委員会学芸員 小野哲也氏ほか

②当館学芸員 阿部綾子・内山大介

(ウ) 実演「アットゥ織」

日時：7月20日(日)10時00分～15時30分

会場：福島県立博物館企画展示室

講師：二風谷民芸組合

(エ) 体験「アイヌ文様を刺繍しよう！」

日時：7月20日(日)①10時～12時

②13時30分～15時30分

会場：福島県立博物館実習室

講師：二風谷民芸組合

(オ) 体験「作って鳴らそう！アイヌの楽器・ムックリ」

日時：8月17日(日)①10時30分～12時

②13時30分～15時

会場：福島県立博物館実習室

講師：二風谷民芸組合

(カ) 映像とお話「アイヌとヒグマ」

日時：9月6日(土)13時30分～15時30分

会場：福島県立博物館実習室

講師：札幌大学特任准教授 田村将人氏、

公益財団法人知床財団保護管理研究係主任

葛西真輔氏

コ 成果と課題

・アイヌ文化財団との共催形式での開催であり、同財団から適切なアドバイスを受けられたため、アイヌ資料の専門家がいなくても開催でき、福島県でアイヌ文化に触れる貴重な機会を提供することができた。また資料輸送費など予算的な面でも多くの支援を受けることができたため、開催経費の少ない当館でも大規模な展覧会として開催可能となり、メリットが大きかった。

・今回はこれまでアイヌ文化財団が開催してきた通常のアイヌ工芸品展とは異なり、特に会津藩の蝦夷地警備・経営に関わる資料を出品したことで、北海道と福島県を結ぶ歴史的関

係性についても紹介することができ、福島県で開催する意義が深まった。

・来場者は約4000人であったが、その5%にあたる204人からアンケートの回答を得た。

・アンケートでは約8割の方が企画展を「とても満足」「まあ満足」と回答しており、来場者の満足度は比較的高かったと言える。また料金設定も「適当」「安い」と回答した方が9割にのぼったことから、金銭的にも満足した方が多かった。さらに回答者のうち、当館友の会の会員でない方が94%にのぼること、来館が初めてか2回目である方が45%であること、約3割が県外からの来館者であることを考えると、新たな客層の獲得につながったと考えられる。

・アンケート回答のうち良かった点としては、普段触れる機会の少ないアイヌ文化に触れることができたこと、資料が豊富であったこと、特に衣類の展示が多く説明も簡潔で興味をもつことができたこと、実演や体験が多くあり特に実演でアットゥ織の織り手と直接話をすることができたこと、アイヌの人々と会津藩との関わりを知ることができたこと、などが挙げられた。今回衣類は衣類用のアクリルケースで展示したため、全体を見ることができたことが高評価につながったようだ。

・悪かった点としては、説明が不十分であり資料の使用方法が分かりにくかったこと、展示順路が分かりにくかったこと、照明が暗かったこと、アイヌの歴史をもっと掘り下げた説明が必要と感じたこと、などが挙げられた。特に説明が不十分との意見に対しては、展示資料の着用例・使用例などを示す図や写真パネルなどを用いれば改善できた点であり、反省材料の一つである。その他の要望としてはアイヌの工芸品やアイヌ文化を紹介する書籍・DVDの販売を求める声が聞かれ、今後グッズ販売(ミュージアムショップの立ち上げ)を行うことが企画展そのものの検討課題として残った。

(3) 秋の企画展

「東日本大震災復興祈念 みちのくの観音さま 人に寄り添うみほとけ」

ア 会 期 平成26年11月1日(土)～12月14日(日)

開館日数 38日間

イ 会 場 福島県立博物館企画展示室他

ウ 入場者数 8,143人

エ 担当学芸員 歴史分野：高橋充 民俗分野：内山大介 他

オ 趣 旨

この企画展は、東北歴史博物館との共同企画(巡回展)で、主催は宮城・福島観音プロジェクト実行委員会(福島県立博物館・東北歴史博物館)、NHK福島放送局の共催を得て実施した。

東北各地の観音像、観音に捧げられた奉納品、観音ゆかりの多彩な文化財など約120点を展示した。東北の地に伝えられた貴重な文化財や豊かな精神文化を再発見する場となり、東日本大震災で被災した方々にひと時の安らぎを与え、復興

への思いを新たにす機会となることを願って開催した。

なお、特別展および関連事業は、平成 26 年度文化庁「地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業」の助成を得て実施した。

カ 展示構成

- 観音菩薩とは
- 第 1 章 観音菩薩のすがた
- 第 2 章 観音菩薩への祈り

キ 展示資料総数

約 120 点

ク おもな展示資料

- 木造菩薩（観音菩薩）坐像 天台寺（岩手県二戸市）
- 木造十一面観音菩薩立像 小沼神社（秋田県大仙市）
- 木造十一面観音菩薩立像 泉龍寺（福島県南相馬市）
- 木造聖観音菩薩立像 常春寺（宮城県石巻市）
- 銅造聖観音菩薩立像 聖福寺（青森県おいらせ町）
- 銅造如意輪観音菩薩坐像 金峯神社（山形県鶴岡市）
- 銅造十一面観音菩薩坐像 都々古別神社（福島県棚倉町）
- 銅造聖観音菩薩坐像御正躰 若松寺（山形県天童市）
- 紙本墨書法用寺縁起絵巻 会津若松市立会津図書館（福島県会津若松市）
- 観音礼拝図絵馬 常隆寺（福島県棚倉町）
- 庄内三十三所巡礼図絵馬 荒沢寺正善院（山形県鶴岡市）
- 傘福 龍沢寺（山形県酒田市）

ケ 関連行事

（ア）関連講座「観音さまのふるさと」

- ①11月8日（土）13：30～14：30「会津の観音講と安産祈願」当館学芸員 内山大介
- ②11月11日（火）13：30～14：30「東日本大震災と観音さま」当館学芸員 高橋充
- ③11月22日（土）13：30～14：30「酒田の傘福・会津のカサボコ」当館学芸員 内山大介
- ④12月11日（木）13：30～14：30「東北各地の観音札所めぐり」当館学芸員 高橋充

（イ）展示解説会

日時：11月1日（土） 11月23日（日祝） 12月14日

（日） 各回とも 13：30～14：30

講師：当館学芸員 11月1日は東北歴史博物館学芸員

（ウ）連携事業

- ①会津美里町教育委員会歴史講座「観音信仰と会津美里町」（第3回）

日時：11月6日（木）10：00～12：00

- ②東北地方民俗学会合同研究会・日本民俗学会談話会シンポジウム「『めぐり』と民俗信仰」

日時：12月6日（土）13：00～16：30

コ 学校連携事業「宮城・福島観音プロジェクト」

特別展の開催に合わせて、県内の複数の学校と連携しながら、児童・生徒を対象に「観音さまを学ぶ」ための事業を展開。連携して事業を進めていただいた学校は下記の通り。

○郡山市立湖南小中学校

○湯川村立笈川小学校

○湯川村立勝常小学校

○福島県立船引高等学校（田村市）

それぞれの学校の教育方針に合わせ、また児童・生徒の発達段階も考慮しながら、基本的には以下のような内容で実施した。

- ①観音や仏教・寺院に関連する内容の学芸員の出前授業
- ②身近な地域の観音像をまつる寺院や観音堂の現地見学
- ③特別展「みちのくの観音さま」の展示見学会と学習成果の発表

また博物館特派員事業として身近な観音について情報などを募集したところ、福島県立福島明成高等学校（福島市）の郷土史部が、以前に近隣の寺院の調査と成果発表を行っていた。これらの学校での活動内容（写真パネル）と児童・生徒が制作した成果品などを、平成 27 年 2 月 14 日（土）～3 月 3 日（火）エントランスホールで掲示した。

サ 成果と課題

東北各地の観音像が集められ、一度に観覧できる機会となったことが来館者の好評価となった。四方から見られるようにした仏像の展示手法も好評であった。また仏像ばかりでなく、観音に対する信仰を示す絵馬やささまざまな奉納品を展示し、巡礼や観音講を対象に盛り込んだことが、展示内容の幅を広げ、東北の観音信仰の奥深さに迫るものとなった。

来館者アンケートでは、図録がなかったことに対する不満が多く、その他に音声ガイドや高齢者割引などを要望する声もあった。また展示室内の騒音など、静かに観覧できないことへの不満の声もあった。大規模な展覧会は、大幅に外部助成金に頼らなければ実施できない状況の中では、どうしても実現できることには制約が多くなる。その中で、今回のように他館との協力を試み、館内部でもできる限りの工夫を重ねることによって、少しでもよい展示を目指してゆくことが求められている。

3 特集展

特集展は、新しく収集した寄贈・寄託資料を中心に、特定のテーマに基づいて一定の期間開催する展示会であるが、特に予算化せず常設展費の予算の枠内でやりくりした。

（1）「磐越西線 100 年のあゆみ」

ア 会期 平成 26 年 5 月 27 日（火）～7 月 6 日（日）

イ 会場 福島県立博物館企画展示室収蔵資料展示室

ウ 入館者数 10,016 人（会期中の常設展入館者数）

エ 担当学芸員 歴史分野：佐藤洋一・田中伸一

オ 趣旨

会津地方が戊辰戦争の荒廃から脱却し、経済復興するためには、物資の大量輸送が可能な鉄道が必要だった。しかし、この鉄道が敷設されるまでには、紆余曲折があった。明治 20 年代に鉄道敷設運動が開始され、大正 3 年（1914）に郡山～新津間の全線が開通するまで、先人たちの並々ならぬ苦労があった。

この特集展では、あまり知られていない岩越鉄道株式会社という私鉄の時代から国有化による国鉄時代、さらに国鉄解体によるJR東日本へという変遷をゆかりの資料を交えながら紹介し、各時代をふりかえる。

カ 主な展示資料

①岩越鉄道の時代(1906年まで) ②国鉄の時代(戦前)(1945年まで) ③国鉄時代(戦後)(1987年まで) ④JRの時代まで の4つに時代区分し、各時代に関わる古写真や印刷物、鉄道で使用された道具、SLや電車の写真等を展示した。

キ 関連事業

Nゲージ運転会(会期中、毎週、土曜日と日曜日に実施した。)5月31日(土)、6月1日(日)、6月7日(土)、6月8日(日)、6月14日(土)、6月15日(日)、6月21日(土)、6月22日(日)、6月28日(土)、7月5日(土)、7月6日(日)

各実施日の運転時間

午前の部:午前10時~午前11時、午後の部:午前2時~午後3時

ク 資料提供者・協力者

会津若松市教育委員会、会津若松市立会津図書館、一般財団法人猪苗代町振興公社、喜多方市教育委員会、東日本旅客鉄道株式会社仙台支社、個人

(2) 「発掘ガールー郡山女子大学短期大学部笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」

ア 会期 平成27年2月7日(土)~3月22日(日)

イ 会場 福島県立博物館企画展示室企画展示室

ウ 入館者数 3,157人(会期中の常設展入館者数)

エ 担当学芸員 考古分野:荒木 隆

オ 趣旨

郡山女子大学短期大学部文化学科では、福島県立博物館の表面調査によって発見された笹山原No.16遺跡(会津若松市)の発掘調査を2001年以来、考古学実習として継続して行ってきた。

笹山原No.16遺跡の調査では、当初の目的としていた後期旧石器時代前半期をはじめとして、その後の縄文時代や平安時代の遺構や遺物が広範囲にわたって発見された。調査結果の詳細な検討から、縄文時代前期や平安時代の会津地方における土器作りのようすが具体的に浮かび上がってきたり、縄文時代前期のムラのように見えてきたりしている。

今回の展示では、これらの調査成果について、調査に実際に携わった大学生も交えて展示や解説を行った。

カ 主な展示資料

後期旧石器時代前半期の石器集中地点から出土したナイフ形石器、局部磨製石斧、石器の素材だった石刃、石器の素材を作るための剥片、石核などを集中地点ごとに展示した。

縄文時代前期(今から約6,000年前)の竪穴建物、土坑、集石墓などから出土した石鏃・石槍・石筥・搔器・磨製石斧・石皿・磨石・石錘などの石器や縄文土器、縄文土器の中には

焼成中に破損したと思われる土器片も含まれており、このムラの中で縄文土器が製作されていたことも紹介した。

平安時代には土師器生産を担った集落が発見されており、材料の粘土をはじめ、粘土採掘穴、ロクロを用いた土師器製作工房として使われた竪穴建物、土師器の焼成遺構などが確認されている。それらの遺構から出土した粘土、製作途中の土師器、焼成に失敗して破損した土師器など、土師器の製作工程がわかる資料を工程ごとに展示した。

キ 関連事業

○記念講演会

演題:「発掘ガールに囲まれて—私の考古学—」

講演者:郡山女子大学短期大学部 准教授 會田容弘氏

日時:平成27年3月8日(日)13:30~

場所:当館講堂

○学生による展示解説会

日時 ①平成27年2月7日(土)13:30~

②平成27年3月8日(日)記念講演会終了後

場所 当館企画展示室

講師 郡山女子大学短期大学部文学科・専攻科文化学専攻 学生有志

ク 資料提供者・協力者

郡山女子大学短期大学部

4 移動展

本年度は実施せず。

5 指定文化財の公開

本館の展示で以下の指定文化財の公開を行った。(館蔵・寄託品などは除く)。

(1) 国指定

(国宝)「一字蓮台法華経開結共」九巻のうち一卷(巻第八)

龍興寺(福島県)

(重文)「木造十一面観音立像(観音堂安置)」一躯 勝常寺(福島県)

(重文)「熊野那智神社御正躰」三十七面のうち五面 高館熊野那智神社(宮城県)

(重文)「木造十一面観音像懸仏」一面 昌林寺(山形県)

(重文)「金銅聖観音像懸仏」一面 若松寺(山形県)

(重文)「天台寺本堂 棟札」一枚 天台寺(岩手県)

(重有民)「円覚寺奉納海上信仰資料」円覚寺(青森県)(以上7件は特別展「みちのくの観音さま」)

(重文)「磐城楢葉天神原遺跡出土品」楢葉町(福島県)(総合展示「原始」)

(2) 県指定(福島県指定)

(県指定)「木造十一面観音立像」一躯 泉龍寺(福島県南相馬市)

(県指定)「八槻都々古別神社御正体」三面 八槻都々古別神社(福島県棚倉町)

(県指定)「木製旧堂山寺観音堂順札納札」一枚 堂山王子神社(福島県田村市)

(以上3件は特別展「みちのくの観音さま」)

(県指定)「梁川城跡出土品」 伊達市教育委員会 (総合展示「中世」)

6 展示解説

(1) 展示解説員

平成26年度の展示解説員は13名で前年度と変わらなかった。これに加えて前年度と同様に常設展示室内で2名分の監視員を委託できる予算がついていた。春の企画展では、展示予算の中で監視員を予算化することができず、夏と秋の企画展では、辛うじてそれぞれの展示予算内で監視員を1名委託することができた。

ただ、企画展開催時には企画展示室の入口のもぎりに人数を割かれるなどするため、常設展示室内の監視員として実質1名の減となっている。そのため、学芸員による監視・解説活動を増やし、定数減の状況乗り越えしかなかった。

このような展示解説員の減員により、それまで実施されていたような解説員が主となる講座などは、今年度も実施できない状況であった。

また、展示解説員は来館者に展示を解説・案内することが第一の役割であるが、定数減により展示解説員1人で対応しなければならぬエリアが広がった関係で十分な解説活動ができない場合が多く、最低限の監視業務を行うので精一杯の状況であることが多かった。

しかし、総合ガイダンスと名付けられた受付での来館者への対応などは、展示や館内の業務をよく知っている解説員でなければ担当できない業務である。現在は、減員の中でもどうにか対応している状況であるが、現在の定員が通常業務を実施する上では限界の状態であり、来館者への解説サービスを考えた場合、定数増が図られなければ、本来の業務にも支障を来すおそれも出てくる。

ア やさしい展示解説

展示解説員による常設展の定時解説で、原則的に他の行事の入っていない土曜と日曜日の午前11時、午後2時の2回開催することになっている。1回の所要時間は約30分。今年度のやさしい展示解説は5月10日からはじめた。

実施状況

開催日数：75日 実施日数：54日
開催回数：146回 実施回数：63回
総参加人数：153人

イ 通し解説

非定期的に行われる常設展・企画展の解説。主として来館者の個人・団体の要望に応じて展示解説員1名が全体を解説するもの。解説員の減員のため、通し解説は困難になってきているが、予約の団体の要望にこたえる形で実施してきていることが多い。

実施回数：16回

ウ 部屋送り解説

非定期的常設展・企画展の解説。主として来館する個人の要望に応じ、各展示室の担当として立っている解説員が順に引き継いで解説する。

実施回数：47回

エ 体験講座

体験講座などの解説員が主体となって実施する講座は、解説員業務に比して人数が少ないために平成26年度も実施されなかった。ただし、七夕の時期には竹飾り、クリスマスには手製のクリスマスツリー、小正月に合わせての団子飾り、ひな祭りの時期に自作の雛人形の段飾りなど、解説員が自分たちで作ったものを体験学習室内に展示することは継続している。

(2) 学芸員

企画展および特集展の開催中は展示監視に立つポストが増えることになり、展示解説員だけでは解説員の昼休みや休憩時間の減員に対応できないので、学芸員が代わって展示室に立つことになっている。原則1コマ45分である。26年度は年間で411回を数えた。とくに展示室内の監視員が予算化できなかった春の企画展では解説員の人員配置を工夫したが、前年度以上に学芸員が展示室に立つ回数も増加した。学芸員が展示室に立つことは単なる解説員の肩代わりではなく、実際に展示室に立つことにより得るもの、気づくものが多かったが、通常業務とのバランスの点で今後の検討が必要である。また、企画展、テーマ展、特集展については、公民館、研究団体などからの依頼に応じて、担当分野の学芸員が展示解説を実施した。

(3) 展示解説のための印刷物

ア 福島県立博物館常設展示解説図録

常設展の解説図録。昭和61年初版発行。106p.

イ 福島県立博物館ガイドブック

常設展の展示内容をコンパクトに解説。裏方の館活動も紹介。昭和61年発行。28p.

ウ Fukushima Museum Permanent Exhibition Guide Book

英文の展示解説パンフレット。希望する来館者に無償配布。平成18年発行。14p.

7 体験学習室

エントランスホール隣に設置してある無料で使用できる場所。囲炉裏のついた畳敷きの座敷と木のフローリングの部分がある。昔のおもちゃが用意されていて、自由に遊べるほか、季節ごとに昔の着物を着ることができる。着付けは衣服の上からだがかなり本格的で好評を得ている。また、資料に触れるハンズオンコーナーは半年ごとの入れ替えになっている。この部屋には展示解説員が常駐し来館者に対応している。

(1) 衣装

ア 衣装着付け

体験学習室で時代衣装の着付け体験を行っている。着衣のままその上に着る形ではあるが、かなり本格的な衣装着付けであり、展示解説員は着付けの技術をきちんと学ばなければならないし、一回の時間もかかる。しかし、他の博物館ではここまできちんと着つけることはそれほど多くはないと思

われ、当館の体験学習室のセールス・ポイントでもある。

(ア) 衣装着付け件数 563 件

(イ) 着付けた衣装

春：打掛・番具足

夏：水干・直垂

秋：壺装束・武士旅姿

冬：半袴・白拍子

衣装の着付けはかなり本格的なものなので、そのため解説員の研修時間も多くなるし、多人数の要望には一度に込め難い面もある。しかし、着終わった姿を鏡に映して満足する来館者が多く見られる。

イ 衣装展示

春：大鎧・稚児鎧

夏：大工・小袖

秋：町人旅姿・編綴

冬：推古朝朝服・天武朝女官朝服

(2) 手作り資料展示

季節に関する手作りの資料を展示した。製作は展示解説員が担当。

7月：七夕飾り / 12月：クリスマスツリー /

1月：団子さし / 3月：手作り雛人形

(3) おもちゃ

畳の上で幼児におもちゃで遊ばせるお母さんや家族連れが多くみられる。壁の引き出しに用意されているおもちゃの利用も多い。修理を必要とするおもちゃもあり、解説員の係で担当している。

おもちゃの修理：131 件

(4) ハンズオンコーナー

来館者が展示品を実際に手に取り使用法を体験できるコーナー

平成 26 年 4 月～平成 26 年 9 月「化石にふれてみよう」

(自然分野)

平成 26 年 10 月～平成 27 年 3 月「古代の音色と輝き」

(考古分野)

8 博物館新情報収集・展示室改善プロジェクト

将来の博物館リニューアルを見据えて、新設あるいはリニューアルを実施した博物館の視察や新しい展示手法に関する情報収集を目的に活動している。今年度は、他県所在博物館のリニューアルについての動向を理解するために、アンケート調査等によるデータ収集とリニューアルに向けての当館の現状把握と課題抽出を実施する計画を立てた。しかしアンケート調査は設問の作成に至らないまま作業が中断しその後の進展がなく年度を終えた。また当館の課題抽出については作業方法の検討も行えなかった。

第 6 節 東日本大震災からの復興支援

平成 23 年 3 月 11 日午後 2 時 46 分、宮城県牡鹿半島沖の海底を震源としたマグニチュード 9.0 の大地震が発生した。震源域は岩手県沖から茨城県沖までの南北約 500km、東西

約 200km の広範囲に及んだ。福島県立博物館のある会津若松市は震度 5 強の揺れを被った。福島県立博物館では、建物の躯体そのものには被害はなかった。しかし、設備および資料に若干の被害があり展示室の安全性の確認と修繕工事のため当面のあいだ休館とした。再開したのは平成 23 年 4 月 12 日（火）である。

福島県域は地震とそれに伴う津波、そして東京電力福島第一原子力発電所の事故により甚大な被害を被った。当館では、震災からの復興支援を目的として、平成 24 年度に新たに「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」を立ち上げた。これは次の 3 つの柱からなっている。

1. ふくしまの宝の発掘と保全

市町村や文化施設および大学等と連携し、被災地域の文化財の救出と保全を図るとともに、地域の宝である文化財や自然史資料を改めて調査・収集し、その価値を明らかにすることに努める。

2. ふくしまの宝の公開と活用

救出および新たに収集した文化財およびその研究成果をさまざまな形で県民に発信し、地域の誇りをとりもどすとともに、それらを教材として、ふくしまの未来を担う子供たちの育成を図る。

3. ふくしまの再生と活性化

文化施設や地域の文化団体、市民グループと連携し、文化資源を活用した地域おこし、文化的事業の開催など、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

このコンセプトに基づいて復興支援の事業を展開している。平成 26 年度は次の事業を実施した。

1 文化財レスキュー

(1) 文化財・資料の受け入れ対応

ア 平成 23 年度以後受け入れ分への対応

前年度から継続して臨時労務員 2 名が整理作業等に当たった。

イ 平成 26 年度受け入れ分

平成 26 年度に、震災関連で新たに受け入れた資料はなかった。

ウ その他

東日本大震災発生から 3 年が経過し、震災の直接的な被害とはいえないものの、この機会に蔵を取り壊す、あるいは建て直すというケースがあり、蔵の中の資料の調査や、民具などの整理作業の指導の要請があった。

(2) 旧警戒区域の資料への対応

ア レスキュー作業の体制

前年度から継続して、福島第一原発事故による旧警戒区域内の資料館が所蔵する資料のレスキュー活動を、「福島県被災文化財等救援本部」（以下「救援本部」、当館は副代表・幹事・事務局）が中心となって行った（打ち合せ・幹事会など 8 回実施）。文化庁、文化財防災ネットワーク推進本部の支援指導を受けた。

イ 旧警戒区域内の学校資料の梱包・搬出作業

「救援本部」の計画にしたがって、双葉高校の収蔵資料の線量計測・記録・梱包・搬出、一時保管場所への搬入作業に参加。

9月に現況調査(1回)、10月・1月に搬出作業を2回実施した。

ウ 保管施設の環境調査

旧警戒区域から運び出された資料の一時保管場所となっている旧相馬女子高校教室の環境調査を当館保存担当職員が中心となって実施した。8回(のべ15日)。調査項目は、温湿度、ガス濃度(酢酸、ホルムアルデヒド、アンモニア)、文化財害虫。また、前年度に救出された資料を保管する福島県文化財センター白河館(まほろん)の仮収蔵庫の環境調査にも協力した(1回)。

エ その他の資料・文化財への対応

旧警戒区域が再編され、部分的に立ち入りが可能になった地域には震災後から取り残されたままの文化財・資料があり、それらへの対応について個別に協力を要請されることがあった。対応のしかたは、以下の通りケースに応じてさまざまであった。

(ア) 南相馬市神社資料

南相馬市小高区の神社の絵馬殿にある和船模型・絵馬(県指定)などを、管理上の問題から、旧相馬女子高校へ搬送した(6月)。

(イ) 南相馬市個人所蔵資料

南相馬市小高区の個人宅の蔵の解体撤去に伴い、近代資料などを搬出した(2月)。資料は南相馬市博物館が受け入れ、クリーニング・整理などが行われる予定。

(ウ) 双葉町寺院資料

仏堂内の資料の現況調査等を行い、搬出のための計画を立てた(7月)。

(エ) 浪江町文化財調査への協力

浪江町が実施する文化財等の所在確認調査に同行して、調査に協力した(2月)。

(3) 資料の展示公開ほか

ア 展示公開

(ア) 当館テーマ展「ふるさとの考古資料4【大熊町】遺跡探訪」(平成25年度～平成26年5月11日)

(イ) 当館テーマ展「ふるさとの考古資料5【富岡町】遺跡探訪」(6月17日～平成27年5月10日)

(ウ) 当館テーマ展「相馬家の婚礼道具 南相馬市同慶寺所蔵の漆工品」(7月19日～8月24日)

イ 研修会

10月2日～3日に福島県博物館連絡協議会・日本博物館協会東北支部・東北地区博物館協会合同の研修会「東日本大震災後の福島県の文化施設」が開催された(会場：福島県立博物館・福島県文化財センター白河館)

2 ふくしま応援ミュージアムイベント

従来実施してきたミュージアムイベントを、「ふくしま応援ミュージアムイベント」と名付け、被災された方々への励ましや、福島県を応援する意図をもったイベントを企画し実施した。

(1) 玄如節と会津の民謡

ア 日時 平成26年6月14日(土)13時30分～15時

イ 会場 福島県立博物館 講堂

ウ 参加者数 62人

エ 出演 玄如節顕彰会の皆さん

オ 内容

玄如節は、即興の掛合で歌うことを基本とする 会津の民謡の源流で、民謡「会津磐梯山」の歌詞のもとにもなっている。今回のイベントでは、会津の民謡をはじめ、相馬地方や東北地方各地の民謡を公演した後、玄如節に合わせ踊りを行い、東日本大震災からの復興を祈念した内容である。

(2) 市民盆踊り

ア 日時 平成26年8月15日(金)19時～20時30分

※博物館閉館後

イ 会場 福島県立博物館 玄関前庭

ウ 参加者数 300人

エ 共催 会津磐梯山盆踊り保存会

オ 内容

博物館前に櫓を組み、会津磐梯山の歌に合わせて自由参加での盆踊り大会を開催した。踊りを通して、先の戦争やこの度の大震災でやむなく生命を奪われてしまった方々に、あらためて追悼と感謝の祈りを捧げた。

(3) 夏休みナイトミュージアム

ア 日時 平成26年8月23日(土)17時30分～19時

イ 会場 福島県立博物館企画展示室・講堂

ウ 参加者数 60人

エ 講師 当館学芸員 相田優・船尾武彦・竹谷陽二郎

オ 内容

いつもと違う雰囲気の中、真つ暗闇な展示室の中を、懐中電灯の光を頼りに見学する「ナイトミュージアム」は、例年人気の高いイベントである。定員制で実施しているが、より多くの方たちに参加していただける内容を検討したい。

(4) クリスマスジャズライブ

ア 日時 平成26年12月20日(土)13時30分～15時

イ 会場 福島県立博物館エントランスホール

ウ 参加者数 145人

エ 出演 芳賀トリオ feat.ナルミ

オ 内容

会津若松市を中心に活動する、結成25年のジャズバンドによるクリスマスライブ。美しい歌声と軽快な演奏で会場を盛り上げていただいた。

3 復興応援パートナー事業

平成24年度に立ち上げた「ふくしまの文化・自然遺産の発掘と再生プロジェクト」の3つの目標のうち、下記を実現するものとして「福島県立博物館復興応援パートナー事業」を実施した。

◎ふくしまの再生と活性化

博物館などの文化施設、地域の文化団体や市民グループが連携し、文化の力を用いて地域の再生と活性化を図る。

3. 被災者支援のための文化的事業の開催

(1) 被災者を応援し元気づける文化的な事業の開催

(2) 各種団体が企画する支援文化事業の受け入れお

よび支援

この目標に該当し、福島県の文化や歴史、自然の豊かさを伝える事業、東日本大震災や東京電力福島第一原子力発電所事故に向き合い、福島の復興や再生を考え、将来像を共有することを目的とした事業の開催をパートナーとしてサポートすることと定めた。

これにより、文化による復興支援事業の効果的でスムーズな開催運営を促し、県民がそれらを楽しむ機会をより多く創出する。また、県立の文化施設として福島県立博物館が福島県の文化的復興支援における役割・責務を果たすことも目的とする。

●復興応援パートナー事業

No.	事業名	主催者・代表	日時	会場
1	ふくしま復興への思いを込めて2015 from 会津	会津地方振興局	3月7日 (土)	講堂 体験学習室 エントランスホール
2	子どもの本まつり in 福島	なかがわちひろ・工藤直子	3月22日 (日)	講堂

4 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2014

東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所事故からの復興に取り組む福島県において文化事業に携わる大学・NPO・博物館などが参加する実行委員会により運営する。自らの文化力を高め、郷土への誇りと自信を回復し、さらに、福島県の文化状況を広く県内外に発信することで日本の文化発展にも寄与しようとする。福島県内の文化施設、公共スペースを活用しつつ、展覧会、滞在制作、フォーラム、ワークショップ等を実施し、県を横断する文化ネットワークの構築を目指す。福島の文化を再発見し、伝えること。新たに創造すること。福島が直面する課題を共有し、みなさんと考える場を生み出すこと。そのために、2014年度は9プロジェクトを実施した。

ア 主催 はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

構成団体 (南相馬市博物館・福島大学芸術による地域創造研究所・いいたてまでいの会・NPO まちづくり喜多方・南相馬市国際交流協会・南相馬市市民活動サポートセンター・特定非営利活動法人西会津ローカルフレンズ・福島県立博物館)

イ 助成 文化庁平成26年度文化庁地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業

ウ 事業内容

(1) 福島祭創造プロジェクト

・南相馬祭り創造プロジェクト

アーティスト：開発好明

主な活動場所：南相馬市

うままつり

会期：2014年11月15日(土)～11月16日(日) 10:00～16:00

*15日はドキュメンタリー映画上映のみ 20:00まで

会場：朝日座 (南相馬市)

出演：坂本頼光 (活動写真弁士)、大口俊輔 (作曲・ピアノ)、小林武文 (作曲・パーカッション)、鈴木広志 (作曲・サクソフォーン)、江口良子 (サクソフォーン)、開発好明 (ディレクション・ワークショップ講師)

共催：筑波大学創造的復興プロジェクト

後援：南相馬市、南相馬市教育委員会

協力：朝日座を楽しむ会、南相馬市市民活動サポートセンター、認定NPO法人山形国際ドキュメンタリー映画祭

趣旨

福島県を代表する伝統行事の相馬野馬追は南相馬市の人々の誇りである。郷土の誇りである「馬」に親しめる祭りを創出することを目的に、震災直後から被災地各地でアートサポートを重ねたコミュニケーションアーティスト開発好明氏の提案から「うままつり」は始まった。会場の「朝日座」は大正12年開館し大衆娯楽の殿堂として親しまれた同館は震災後、数多くのイベントを開催し地域の文化拠点に成長している。本事業は朝日座を守る会の全面的な協力を得て、開発氏のディレクションにより、活弁を交えた無声映画、筑波大学創造的復興プロジェクト制作の「いわきノート」など震災の記憶を映像化した作品を上映した。ロビーでは南相馬市内の仮設住宅の方々が日々制作している手作りの品々を陳列、南相馬市有志の方のワークショップ参加もあった。隣設の駐車場では南相馬市の野馬追関係者から二頭の馬をお借りし、子供たちを対象に乗馬体験、開発氏ののぼり旗制作ワークショップを行なった。また慶応大学加藤文俊氏のコミュニケーションワークショップ「カレーキャラバン」も加わり会場に賑わいを添えた。

開催にあたっては開発氏と実行委員会、地域のアート支援者・幼稚園教諭・市民団体・仮設住宅の方々・牧場経営者など南相馬市民との対話を重ねた。

南相馬市鹿島区北屋形の神楽再興をサポートする事業は3年目となり、祭礼での神楽奉納を継続する当初の目的を達成しつつある。昨年度は北屋形の方々と神楽再興を果たし今年度は永続的な神楽継承の視点で地域の方々とミーティングを行い、開発氏が制作した発泡スチロール製獅子頭に本格的漆塗装を施した。今後は北屋形地区外での公演も話題に上がっている。

・飯館村田植え踊り再興プロジェクト

アーティスト：小野良昌

主な活動場所：福島市、飯館村

田植え踊り境野家公演

日時：2014年12月11日(木) 14:55～15:45

会場：境野邸 (福島市飯野町)

踊り指導・伴奏：飯館村飯樋町田植え踊り保存会の皆さん

着付け協力：飯館村飯樋町の皆さん

協力：いいたてまでの会

構成協力：小林由佳（振付師・ダンサー）、服部晴子（振付師・ダンサー）

撮影協力：木下裕子

撮影：小野良昌

趣旨

東京電力福島第一原子力発電所災害による放射能汚染により全村避難となった飯館村では時間の経過とともに避難先での文化の継承が危惧される。これに対し飯館村立飯館中学校では2013年からふるさと学習に取り組み、1年生は田植踊り、2年生は昔話、3年生は食文化を学んでいる。はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトでは、2013年度から引き続き、1年生の田植え踊り学習の映像記録と、田植え踊りの本来の意義を子どもたちが理解・体験することを目的に中学校が仮移転している福島市飯野町の古民家での公演を支援した。

(2) 福島写真美術館プロジェクト

・南相馬環境記録プロジェクト

アーティスト：片桐功敦

主な活動場所：南相馬市、相双地区

・福島環境記録プロジェクト

アーティスト：赤坂友昭

主な活動場所：三島町、伊達市、南相馬市、相双地区

・南相馬住まいの記憶プロジェクト

アーティスト：安田佐智種

主な活動場所：南相馬市、相双地区

・福島の水源地をたどるプロジェクト

アーティスト：本郷毅史

主な活動場所：西郷村

・福島写真美術館プロジェクト成果展いわき

会期：2014年11月1日（土）～11月29日（日）

会場：もりたか屋（いわき市）

・トークセッション「福島・写真・記録」

日時：2014年11月29日（日）13:30～15:00

会場：もりたか屋（いわき市）

講師：安田佐智種、本郷毅史

モデレーター：赤坂憲雄

・福島写真美術館プロジェクト成果展福島

会期：2014年12月6日（土）～12月21日（日）

会場：ふくしまキッチンガーデンビル2階（福島市）

・フォーラム「福島で撮る」

日時：2014年12月20日（土）13:30～16:30

会場：ふくしまキッチンガーデンビル2階（福島市）

基調講演「福島写真美術館の可能性」

講師：飯沢耕太郎（写真評論家）

ディスカッション「福島で撮る」

講師：赤坂友昭、片桐功敦、野口勝宏（写真家）、小原一真（フォトジャーナリスト）

モデレーター：飯沢耕太郎（写真評論家）

趣旨

東日本大震災後、写真はいち早く芸術表現の諸分野の中で成果を上げた。その可能性への信頼・期待から始まった本プロジェクトの2014年度は、津波と東京電力福島第一原子力発電所災害の被災地である南相馬市、浪江町、奥会津地方の三島町、福島県を貫流する阿武隈川の源流がある西郷村で撮影、制作が行われた。華道家・片桐功敦氏は鎮魂と慰霊の祈りを込めて活けた被災地の草花を記録、写真家・赤坂友昭氏は県内の自然環境の多様性を野生動物の視点を交えて探り、アーティスト・安田佐智種氏は流出家屋の基礎に残る記憶の気配を微細に追い、写真家・本郷毅史氏は人の命の源である水の流れの源流を訪ねた。

いわき市、福島市で成果展を開催。会期中にいわき市会場では赤坂憲雄実行委員会委員長と参加作家の安田佐智種氏、本郷毅史氏の鼎談、福島市会場では、参加作家の赤坂友昭氏、片桐功敦氏に加え、郡山で活動する写真家・野口勝宏氏、フォトジャーナリスト・小原一真氏と写真評論家・飯沢耕太郎氏をお招きしてのフォーラムを開催した。

(3) 岡部昌生フロッタージュプロジェクト

アーティスト：岡部昌生

主な活動場所：南相馬市、飯館村、大熊町、石川町

・札幌ラウンドテーブル 札幌で語る<近代>

日時：2014年9月13日（土）13:30～16:30

会場：札幌市資料館（札幌市）

講師：岡部昌生、港千尋（多摩美術大学教授・写真家）、管啓次郎（明治大学大学院教授・詩人）

ゲスト：佐藤友哉（札幌芸術の森美術館長）

報告者：二上文彦（南相馬市博物館学芸員）

・奔別トークセッション 北海道/福島・炭鉱/アート

日時：2014年9月14日（日）13:00～16:00

会場：旧住友奔別炭鉱選炭施設石炭積出ホッパー作品展示会場（三笠市）

講師：岡部昌生、渡邊晃一（福島大学教授・美術家）

ゲスト：港千尋（多摩美術大学教授・写真家）、管啓次郎（明治大学大学院教授・詩人）、吉岡宏高（NPO 法人炭鉱の記憶推進事業団理事長）

趣旨

南相馬市を中心に、アーティスト岡部昌生がフロッタージュ作品の制作と地域のリサーチ、地域住民、イベント参加者との対話を通して東日本大震災と東京電力福島第一原子力発電所災害の記憶をとどめ、さらに南相馬、周辺地域の有史以前の歴史にも触れる。

2014年度は南相馬市から大熊町、飯館村、石川町へ活動範囲を拡げた。大熊町では同町教育委員会とともに行動し限られた活動時間の中での効率的な制作に努めた。飯館村では同村の歴史研究者の協力、指導を得て石造文化財を中心にフロッタージュ作品を制作した。また、昨年の広島市に続き9月13日には北海道札幌市で札幌国際芸術祭連携事業として管啓次郎氏、港千尋氏らを招きラウンドテーブル、翌14日

には三笠市の旧住友炭田で吉岡宏高氏らを加えトークセッションを行った。近代を支える産炭地としての北海道の歴史に石炭と電力の供給地であった福島の近現代を重ねる対話が繰り返され、福島を開発とエネルギーの視点から横断する視野が定まった。

その後、大熊町、石川町で第二次リサーチ、制作を実施。大熊町では同町教育委員会、地域史研究団体「ふるさと塾」、石川町では石川町立歴史民俗資料館の指導・協力のもと近代の製炭試験場、鉱物採掘場跡地をリサーチ、フロッタージュ作品を制作した。2月にはこれまでの制作作品の撮影、目録化を行った。

(4) 「黒塚」発信プロジェクト

アーティスト：渡邊晃一

ゲストアーティスト：平山素子、高明

主な活動場所：福島市、二本松市、浪江町

・「黒と朱」完成上映会＋トークセッション「黒塚」

日時：2014年11月29日(土) 17:00～19:00

会場：ボレボレイわき(いわき市)

講師：渡邊晃一、平山素子、高明

モデレーター：赤坂憲雄

・「黒と朱」完成上映会＋トークセッション「黒塚」

日時：2015年2月28日(土) 18:00～20:00

会場：フォーラム福島(福島市)

講師：平山素子、高明

モデレーター：渡邊晃一

趣旨

福島大学渡邊晃一教授の提唱で始まったふくしまダンスプロジェクト「安達ヶ原」は、2014年度「黒塚」発信プロジェクトとして継続した。福島発の文化発信を目的とした本プロジェクトは、舞台公演までには多くの課題を残しているが、本年度は映像作品「KUROZUKA 黒と朱」を制作し、黒塚をテーマとした公演に向け一歩を踏みだした。昨年度取り組んだ「黒塚」理解のためのフォーラムの成果を活かし、コンテンポラリーダンサー・平山素子氏主演、高明監督による映像作品「KUROZUKA 黒と朱」を福島県二本松市にある黒塚ゆかりの地・観世寺、津波と東京電力福島第一原子力発電所災害の被災地浪江町、南相馬市、福島大学構内で撮影した。映像作品完成記念上映会をいわき市、福島市で開催。平山素子氏・渡邊晃一氏・高明氏・赤坂憲雄実行委員会委員長によるトークセッションを合わせて行なった。

(5) 精神の〈北〉へプロジェクト

アーティスト：丸山芳子

ゲストアーティスト：小野良昌、千葉奈穂子

主な活動場所：喜多方市、会津若松市、昭和村

・あなたにとって、精神の〈北〉とは【展示】

日時：2014年9月6日(土)～7日(日)

会場：東町蔵屋敷会陽館(喜多方市)

入場料：無料

・あなたにとって、精神の〈北〉とは【フリートーク】

日時：2014年9月6日(土) 16:30～18:30

会場：東町蔵屋敷会陽館(喜多方市)

講師：丸山芳子、小野良昌、千葉奈穂子

・あなたにとって、精神の〈北〉とは【トークセッション】

日時：2014年9月7日(日) 14:00～16:00

会場：東町蔵屋敷会陽館(喜多方市)

講師：丸山芳子、小野良昌、千葉奈穂子

ゲスト：菅家博昭(専業農家)、長谷川浩(早稲谷大学主宰)、山中雄志(文学博士)

・シンポジウム 北の美と魂

日時：2015年2月1日(日) 13:00～15:30

会場：大和川酒蔵北方風土館(喜多方市)

講師：山内宏泰(リアス・アーク美術館学芸係長)、山内明美(大正大学特命准教授)

趣旨

喜多方市を中心に会津地方のメンバーで構成される精神の〈北〉へ実行委員会との共働、連携で実施。2014年度は、小野良昌(写真家)・千葉菜穂子(美術家)・丸山芳子(美術家)各氏が昭和村・喜多方市山都で同地を拠点に活動する農業研究者・地域史研究者の長谷川浩氏・山中雄志氏・菅家博昭氏と地域のリサーチを行なった。その成果をアーティストと研究者の対話形式のトークセッションで報告し、一般に公開した。また、東北の精神性、歴史を考えるシンポジウム「北の美と魂」を開催、気仙沼リアス・アーク美術館学芸係長の山内宏泰氏、大正大学特命准教授の山内明美氏をお招きし、実行委員会委員他一般参加者が参加して対話を行った。

(6) 飯館村の歴史・暮らし記録プロジェクト

主な活動場所：福島市、飯館村

・いいたてミュージアム巡回展東京

会期：2014年12月10日(水)～12月17日(水) ※14日(日)休

会場：法政大学市ヶ谷キャンパス外濠校舎1階メディアラウンジ(千代田区)

入場料：無料

主催：いいたてまでの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、法政大学国際文化学部

・いいたてミュージアム巡回展神戸

会期：2015年1月10日(土)～1月15日(木) ※13日(火)休

会場：デザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO(神戸市)

入場料：無料

主催：いいたてまでの会、加川広重巨大絵画が繋ぐ東北と神戸プロジェクト実行委員会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会

・いいたてミュージアム巡回展京都

会期：2015年1月24日(土)～1月28日(水)

会場：京都造形芸術大学瓜生館1F(京都市)

入場料：無料

主 催：はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト実行委員会、いいたてまでの会
協 力：京都造形芸術大学文明哲学研究所
趣 旨

東京電力福島第一原子力発電所災害による放射能汚染により全村避難となった飯館村。住民が土地を離れなければならない現状において、地域の歴史・文化をどのように記録、継承するか。時間の経過とともに困難になるその課題への解決策として、本プロジェクトでは飯館村への支援活動を続けているいいたてまでの会と連携しながら村民への聞き書きと資料収集を行った。今年度は、活動成果を、いいたてまでの会、開催地各団体の共働により「いいたてミュージアム巡回展」として東京の法政大学（主催：法政大学国際文化学部、いいたてまでの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト）、神戸のデザイン・クリエイティブセンター神戸 KIITO（主催：いいたてまでの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト、加川広重巨大絵画が繋ぐ東北と神戸プロジェクト実行委員会）、京都の京都造形芸術大学瓜生館（主催：いいたてまでの会、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト、協力：京都造形芸術大学文明哲学研究所）で展示した。東京、神戸では飯館村民による飯館村の現状を伝える講演会も開催した。

（7）福島祝いの膳プロジェクト

アーティスト：中山晴奈
主な活動場所：南相馬市、いわき市、伊達市、福島市、西会津町、喜多方市など
第2回ランド・ラウンドテーブル第3部福島祝い膳
基調講演「福島祝い膳」+福島祝いの膳プロジェクト展示解説
日 時：2015年2月14日（土）17：30～18：15
会 場：大和川酒蔵北方風土館（喜多方市）

祝いの席のために用意される食文化には、各地域の人々の願い、裏返せば地域の課題が内包されている。郷土料理、特産品のPRとは異なる、食を通しての地域文化の掘り起こしをフードデザイナーの中山晴奈氏と諸団体、研究者、博物館との共働で進めている。広い福島県全域の調査にはなお時間が必要だが、2014年度はいわき市・南相馬市・福島市・伊達市・喜多方市・西会津町でリサーチを行なった。海産物、神社に奉納する酒粕料理、薬用植物、流通に乗らない地野菜、山菜の保存方法、麩などの保存食、柿や豆の加工品等を調査した。リサーチ結果は、親しみやすい新聞サイズの印刷物にまとめ、各地で集めた食材を第2回ランド・ラウンドテーブルの際に展示し、成果報告会を行なった。総括として開催した南相馬フォーラム「南相馬からの福島発信」は、長時間の連続講演とセッションであったが各プロジェクト担当者や一般参加者が交流する機会ともなり、フロアセッションでは南相馬市長はじめ約40名が参加して活発な対話が行なわれた。南相馬市での本事業の広報に大きな効果があった。

（8）夢のカプロジェクト

・豊間ことばの学校

ゲストアーティスト：吉田重信、新井英夫、千葉清藍、玉井夕海

会 場：いわき市立豊間小学校

・虹をつくろう、虹を描いて名前をつけよう
日 時：6月6日（木）14：30～16：00
講 師：吉田重信
・●●を体で表現しよう
日 時：6月13日（木）、6月20日（木）14：30～16：00
講 師：新井英夫
・心の一文字
日 時：6月27日（木）、10月24日（木）14：30～16：00
講 師：千葉清藍
・自分のテーマソングを作ろう
日 時：9月26日（木）、10月10日（木）、10月31日（木）14：30～16：00
講 師：玉井夕海
趣 旨

豊間地区は、東日本大震災の津波被害が甚大で、東京電力福島第一原子力発電所事故による影響も受けた。過酷な経験を記憶に抱えながら暮らす生徒たちの心の成長を促し、表現力と創造力を身につけるために、生徒たちの「ことば」での表現力、他者の「ことば」を理解し、共有する能力を向上させてほしいという豊間小学校の教員、PTAの要望から「豊間ことばの学校」はスタートした。4人の表現者を講師に迎えた全8回のワークショップ形式の授業では、1年生から6年生までの幅広い学年の参加生徒たちが、「ことば」を創造する楽しみを共有・実感した。

・好間土曜学校—アートな自然—

アーティスト：吉田重信
ゲストアーティスト：なにわホネホネ団、佐藤香、君平、城戸みゆき、小田隆
主な活動場所：いわき市
・ぐるぐるアンモナイト
日 時：9月13日（土）9：30～11：30
講 師：なにわホネホネ団
・光の鳥ワークショップ
日 時：10月4日（土）9：30～11：30
講 師：吉田重信
・どろんこアート～土ってどんな色？～
日 時：11月1日（土）9：30～12：30
講 師：佐藤香
・小さな命を観察して、樹脂粘土でつくろう
日 時：12月26日（金）9：30～12：30
講 師：君平
・森をみつけにいこう
日 時：2015年1月17日（土）9：30～12：30
講 師：城戸みゆき

・恐竜の頭の骨の絵から生きてる姿を考えよう

日 時：2015年2月7日（土）9：30～12：30

講 師：小田隆

趣 旨

いわき市立好間第一小学校で行った「好間土曜学校」は、参加生徒に「自然の素晴らしさ」「生命の尊さ」を体感してもらうことを目的に開催。2014年9月から2015年2月まで、毎月1回土曜日に自由参加、体験型の学校という位置づけで実施した。講師を依頼した5名1組の美術家は、それぞれの表現手法によって、いわきのアンモナイトの形、太陽の光と影、いわきの土の色、微生物の形、森の造形、恐竜の骨格などをテーマに造形ワークショップを行なった。

・ARDA 南相馬ワークショッププロジェクト

企画運営・実施：認定 NPO 芸術資源開発機構（ARDA）

主な活動場所：南相馬市

ワークショップ ろくぶて一族の冒険

日 時：10月20日（月）、10月21日（火）9：40～11：00、10月22日（水）9：10～10：30

会 場：南相馬市立大甕幼稚園

趣 旨

東日本大震災直後から、アートワークショップを通して被災地の支援を行っている ARDA。震災後数年間を経て、福島県の子どもたちが抱える心の問題に取り組むべく南相馬市の幼稚園でのワークショップを実施。子どもたちの表現力を育み、福島が抱える課題に向き合うことを企図した。

・福島てわざ復興プロジェクト

主な活動場所：喜多方市

趣 旨

東日本大震災後、避難者の新しいコミュニケーションの構築がものづくりを通して試みられている。本プロジェクトではてわざ復興から将来像を描けるようなトークイベントの開催を企画。第2回グランド・ラウンドテーブルのテーマのひとつに「ものづくり」を掲げて実施した。

（9）はま・なか・あいづグランド・ラウンドテーブル

・第1回グランド・ラウンドテーブル「いま、福島からの演劇」

日 時：12月27日（土）13：30～19：00／12月28日（日）10：00～15：30

会 場：大和川酒蔵北方風土館（喜多方市）

講 師：平田オリザ（劇作家・演出家）、相馬千秋（アートプロデューサー）、いしいみちこ（ドラマティチャー）、小沢剛（アーティスト）、やなぎみわ（アーティスト）、小畑瓊子（朝日座を楽しむ会代表）、三澤真也（大宴会 in 南会津実行委員会委員）、島崎圭介（NPO 法人 Wunder ground 代表）、佐藤雅通（福島県立大沼高校演劇部顧問）、篠田直子（喜多方発 21 世紀シアター実行委員会事務局長）

モデレーター：赤坂憲雄

・第2回グランド・ラウンドテーブル「作る愛しさ、いただく命」

日 時：2015年2月14日（土）13：30～19：15／2月15日（日）10：00～15：00

会 場：大和川酒蔵北方風土館（喜多方市）

講 師：鞍田崇（哲学者）、中山晴奈（フードアーティスト）、舟木由貴子・渡辺悦子（渡し舟主宰）、菅家藤一（間方生活工芸技術保存会会長）、庄司ヤウ子（會空代表）、遠藤由美子（会津自然エネルギー機構理事）、木村正晃（野菜ソムリエ・料理研究家）、長谷川浩（早稲谷大学主宰・福島大学つくしま未来支援センター特別研究員）、佐々木長生（福島県立博物館専門員）、

モデレーター：赤坂憲雄

趣 旨

グランド・ラウンドテーブルは、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2014 の事業報告、発信、そして福島県内で震災後に行われている文化活動の情報共有を目的に開催。

第1回グランド・ラウンドテーブル「いま、福島からの演劇」では、はま・なか・あいづ文化連携プロジェクトの新たな領域に演劇を据え、近年福島において展開されてきた多様な活動を共有し、その成果を振り返るとともに、未来に向けた対話の場を設けた。基調講演者・モデレーターに平田オリザ氏・相馬千秋氏を迎え、総合司会を赤坂憲雄実行委員長が勤めた。報告者はアーティスト小沢剛氏・やなぎみわ氏の他、福島県内でさまざまな演劇に関する活動に携わっている6名を加え計11名。ほぼ満員の会場で二日間、4部11時間に及ぶ対話が行なわれた。

2013年度に実施した「福島てわざ復興プロジェクト」では、被災者の心の復興、社会参加にものづくりが有効であることが確認された。本年度は「ものづくり」の「もの」の幅を工芸から食さらにエネルギーまで拡張し、さらに「ものづくり」に関わる歴史・精神史に触れる機会として第2回グランド・ラウンドテーブル「作る愛しさ、いただく命」を開催した。同時に「福島祝い膳」の再現展示・展示解説を行なった。明治大学教授鞍田崇氏・フードアーティスト中山晴奈氏を基調講演講師に、その他福島県内外で行なわれているさまざまなものづくりの実践者・研究者を報告者に招き、二日間6部11時間にわたる自由な対話を通して福島における新たな「ものづくり」を考える場となった。

（その他）記録集

『はま・なか・あいづ文化連携プロジェクト 2014 記録集』は、多岐にわたる本事業の内容が一目で見渡せる体裁で、本事業への協力者、参加者の理解が深まった。また今後の展開にあたって個人・団体に理解・協力を求める際に有効な説明資料となる。

5 震災遺産保全プロジェクト

東北地方太平洋沖地震は県内に甚大な被害をもたらし、原発事故も引き起こした。これらにより多量の瓦礫、仮設住宅や汚染物質の保管施設など予想しなかった非日常の景観を新たに生み出した。本プロジェクトは、震災が発生させたこれらの遺産を次世代に震災の経験を伝える地域の重要な歴

史資料と捉え、それらを保全し、防災教育等へ活かすための取り組みである。

事業は文化庁の文化芸術振興費補助金（地域と共働した美術館・歴史博物館創造活動支援事業）の採択を受け、実行委員会を組織（実行委員会構成団体：相馬中村層群研究会・南相馬市博物館・双葉町歴史民俗資料館・富岡町歴史民俗資料館・いわき市石炭化石館・ふくしま海洋科学館・いわき自然史研究会・福島県立博物館）し、事務局を県立博物館内において以下の4つの事業を実施した。

1. 検討会議 検討会議を3回開催し、事業計画及び成果と課題について検討を加えた。
2. 普及事業 本プロジェクトの趣旨と活動の紹介に加え、震災遺産への関心喚起を目的に、県内3会場（南相馬市博物館・福島県立博物館・いわき市田人地区）にて震災遺産展示会・報告会・講演会・見学会を開催した。
3. 調査事業 福島県浜通り地域を中心とする8自治体で震災遺産の所在調査を行った。資料の来歴を確認し、資料の背景や意味合いを理解するための聞き取り調査も当事者の協力を得て行った。調査記録はカード化し、併せてリストとマップを作成した。また事業の参考とするため、先進事例として三陸地方と中越地方の震災遺産保全の取り組みについて調査を実施した。
4. 資料の収集・整理事業 放射線量を計測し基準値以下の値を示した震災遺産（約100点）を収集し、搬送後に燻蒸も実施した。震災遺構については東北大学と連携し3D計測を実施した。また富岡町所在の津波被災パトカーは町民と共に現地保全に取り組んだ。

事業の成果について以下にまとめる。

- 1 実行委員会を広域的かつ多様な立場の人員で構成したことで、多視点の考え方や情報の共有が図られ、被災地域ごとの事情に応じた交渉や対応を進めることができた。単独館では、急速に復興事業が進展状況下での事業展開は難しく、本事業は連携組織を設置し広域的な課題に取り組む新たな機能を博物館に備える一つのモデルケースと位置付けられる。
- 2 普及事業には3会場で延べ450人程の参加者があり、関心の高さが窺われる。宮城県や東京都からの参加もあった。未だ震災の爪痕が多く残る段階で普及事業を開催することに、どんな反応があるのか不安もあったが、アンケートでの集計や会場での感想を聞くと、「悲しみ」の記憶が再生されたとの声と同時に、事業については意義深いとの回答が多くあり、本事業について一定の理解を得ることができたものと受け止めている。また南相馬市の避難所が開設された新潟県長岡市から講師を招聘して講演会を行い、同時に資料を借受けて展示したことで、震災遺産の多様性（被災地だけに資料があるのではない）を示したことも意義がある。なお普及事業を契機に今後長岡市と南相馬市の交流事業が具体化する動きがあり、これも事業の成果と言える。活断層に関する講

座もいわき市および地域の振興協議会と連携して実施し、「負の遺産」を地域の財産として位置づけ活用していくための一歩となった。

3 調査は本事業の基幹をなしている。今回の調査手法で効果的だったのは聞き取り調査である。全町避難による住民不在という制限があるため件数は多くないが、震災遺産の歴史資料としての位置付けや掘り下げ、予断による資料理解の回避に有効である。例えば、浪江町の新聞販売店では店舗の沿革や日常業務の内容を聞き取り、その後震災当日の状況、そして避難から現在に至る経緯について記録した。これにより震災が物理的に物を破壊するのみでなく、日常の生活（仕事や学校生活など）と言った無形の、繰り返される日々の暮らしを断絶させたことを浮き彫りにすることができた。また聞き取りを行うことで意義を見出し新たに収集するに至った資料も存在する。

4 先進地視察では、震災遺産の保全の手法や震災を伝える各施設の状況を調査したが、すでに述べたように広域的な組織で取り組んでいる事例が少なく、本プロジェクトの取り組みの特性が明確になった。なお長岡市の震災遺産の取組を調査したことが、先の普及事業の開催に繋がっている。

5 県内では、いわゆる震災遺構の保存についての議論が他県と比べ低調である。おそらくそれは全町避難などによる住民不在も一つの要因と考えられる。その一方で復旧・復興事業による震災痕跡の消失が進み、震災遺構についても多く失われる状況にある。こうした現状に対しいわゆる記録保存の措置として、三次元レーザー測量や全天球撮影機での記録保存を新たな取り組みとして実施した。前者については6施設で計測を実施した。レーザー計測事業を紹介した自治体の中には、事業の意義を認め、独自に被災建造物の計測事業の準備を進めている所もある。全天球撮影動画は富岡町のFacebookに一部提供し、多くの閲覧実績がある。デジタルツールの情報発信の効果を示している。

6 今年度保全した震災遺産の中で、富岡町の津波被災パトカー保全は、町民有志・関係機関と本プロジェクトの意向が一致し取り組んだものになる。パトカーの除砂・洗浄・防錆剤の塗布等、作業は困難を極めたが、震災を未来に伝えるという強い意志の元、多様な階層の方々と共同して作業を行えたこと自体も将来に伝えるべき事例と言えよう。

7 「震災遺産」という言葉はまだ新しく、用語としては「震災遺構」が一般的であり、広く普及しているのが実際である。本プロジェクトでは不動産的な「遺構」と動産的な「資料（遺物）」も震災を伝えるツールとしては同等・同格のものとし、これらを包括する概念として「震災遺産」を使用している。年度の後半から、プロジェクトの活動が報道機関に取り上げられることが多くなっていく中で、初めは「遺構」と「遺物」を明確に区別できていない報道もあったが、次第に「震災遺産」を用いる例が多くなり、活動の理解と認知が浸透してきたことの現れと理解している。

第7節 平成26年度行事

(1) 木曜の広場

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
「はじまりの東北学」1	赤坂憲雄	館長	4月17日(木)	95
「はじまりの東北学」2	赤坂憲雄	館長	5月15日(木)	125
「はじまりの東北学」3	赤坂憲雄	館長	6月19日(木)	112
「はじまりの東北学」4	赤坂憲雄	館長	7月17日(木)	110
「はじまりの東北学」5	赤坂憲雄	館長	8月22日(木)	121
「はじまりの東北学」6	赤坂憲雄	館長	9月18日(木)	104
「はじまりの東北学」7	赤坂憲雄	館長	10月16日(木)	95
「はじまりの東北学」8	赤坂憲雄	館長	11月20日(木)	98
「はじまりの東北学」9	赤坂憲雄	館長	12月18日(木)	70
「はじまりの東北学」10『特集 博物館の未来を語る』「地域に種蒔く博物館～博物館発アートプロジェクトの実践～」	赤坂憲雄	館長	1月15日(木)	88
「はじまりの東北学」11『特集 博物館の未来を語る』「再生!ふくしまの自然～被災した動植物の調査をふまえて～」	赤坂憲雄	館長	2月26日(木)	110
「はじまりの東北学」12『特集 博物館の未来を語る』「震災をどう未来に伝えるか～ふくしま震災遺産保全プロジェクト～」	赤坂憲雄	館長	3月26日(木)	121

(2) 考古学講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
実技講座「土器作り1」	森 幸彦	学芸員	8月2日(土)	20
実技講座「土器作り2」	森 幸彦	学芸員	8月3日(日)	20
考古学講座「土器の野焼き」	森 幸彦	学芸員	9月28日(日)	20
考古学最前線「みちのくの弥生水田」	田中 敏	学芸員	7月12日(土)	16
考古学最前線「新発見!最北の短甲～中島村四歩穂田古墳」	高橋 満	学芸員	9月14日(土)	75

考古学最前線「ふくしまの古代交通路」	荒木 隆	学芸員	10月11日(土)	60
実技講座「古墳の壁画を描いてみよう」	荒木 隆	学芸員	10月25日(土)	6
考古学最前線「Salon de Jomon」	森 幸彦	学芸員	1月10日(土)	20
実技講座「勾玉・ガラス玉を作ろう」	高橋 満	学芸員	3月29日(土)	20
考古学最前線「Salon de Archaeology」	藤原妃敏	学芸課長	3月22日(日)	25

(3) 民俗講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
「ふくしまの農の神さま」	佐々木長生	専門員	12月13日(土)	32
「サイノカミ～会津の小正月行事～」	二瓶浩伸	学芸員	1月24日(土)	32
「わら人形の信仰と行事」	大里正樹	学芸員	2月14日(土)	35
民俗特別講演会「佐々木長生学芸員半生(反省?)を語る」	佐々木長生	専門員	3月1日(日)	207
「ひな行事～流し雛と吊るし雛～」	内山大介	学芸員	3月14日(土)	33

(4) 歴史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
「歴史の中の遊び1 あそびと馬」	田中伸一	学芸員	2月7日(土)	30
「歴史の中の遊び2 会津の板かるた」	阿部綾子	学芸員	2月21日(土)	65
「歴史の中の遊び3 戦国武将の嗜み」	高橋 充	学芸員	2月28日(土)	58

(5) 自然史講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
野外講座「化石をさがそう」	竹谷陽二郎	学芸員	9月6日(土)	35
実技講座「化石標本をつくろう」	相田 優	学芸員	9月7日(日)	35
鶴ヶ城の野鳥	古川裕司	野鳥研究家	11月16日 (日)	8

(6) 保存科学講座

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
博物館の裏側～保存科学の仕事のをぞこう～	杉崎佐保恵	学芸員	4月26日(土)	14

(7) ギャラリートーク

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」1	荒木 隆	学芸員	5月6日(火)	19
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」2	荒木 隆	学芸員	8月16日(土)	9
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」3	荒木 隆	学芸員	9月15日 (月・祝)	11
解説会「展示資料からみる古代のふくしま」4	荒木 隆	学芸員	11月3日 (月・祝)	15
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会1	荒木 隆	学芸員	7月13日(日)	19
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会2	荒木 隆	学芸員	7月27日(日)	10
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会3	荒木 隆	学芸員	8月3日(日)	20
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会4	荒木 隆	学芸員	8月10日(日)	10
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会5	荒木 隆	学芸員	8月17日(日)	7
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会6	荒木 隆	学芸員	8月24日(日)	8
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会7	荒木 隆	学芸員	9月14日(日)	5

テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会8	荒木 隆 み	学芸員	10月12日(日)	9
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会9	荒木 隆	学芸員	11月16日(日)	5
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会10	荒木 隆	学芸員	12月14日(日)	3
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会11	荒木 隆	学芸員	1月11日(日)	6
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】	荒木 隆	学芸員	2月8日(日)	2

遺跡探訪解説会 12				
テーマ展ふるさとの考古資料5【富岡町】 遺跡探訪解説会 13	荒木 隆	学芸員	3月8日(日)	8

(8) 指導者向け研修

テーマ	講師	講師所属	期日	参加人数
博物館利用指導者研修会	田中伸一ほか	学芸員	7月25日(金)	7

(9) 実技講座

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
小旗をつくろう	大野青峯 大野久子	伝統技術保持者	5月5日 (月・祝)	6
会津三島の編み組み細工「マタタビ蔓の そばザル作り」1	菅家藤一他	伝統技術保持者	7月5日(土)	15
会津三島の編み組み細工「マタタビ蔓のそば ザル作り」2	菅家藤一他	伝統技術保持者	7月6日(日)	15

(10) 実演

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
大堀相馬焼の絵付け	半谷みどり	大堀相馬焼窯 元 休閑窯	6月21日(土)	20
昔語り	横山幸子	語り部	9月13日(土)	30
再現！縄文時代の編み組細工	佐々木由香	考古学研究者	1月11日(日)	30
テーマ展開連「かるた大会」	井上昌威ほか	会津かるた会	3月28日(土)	50

(11) 企画展記念講演・シンポジウム・講座・展示解説会等

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
写真展「東北・風土・人・暮らし」記念 講演会 飯沢耕太郎・赤坂憲雄対談 「縄文の再生「東北・風土・人・く らし」展を巡って」	飯沢耕太郎 赤坂憲雄	写真評論家 館長	4月19日(土)	90
企画展「アイヌの工芸」ギャラリートーク	小野哲也ほか	標津町教委学芸員	7月19日(土)	50
企画展「アイヌの工芸」実演「アットゥシ 織」	二風谷民芸組 合のみなさん		7月20日(日)	94
企画展「アイヌの工芸」体験「アイヌ文様 を刺繍しよう！」	二風谷民芸組 合のみなさん		7月20日(日)	39
企画展「アイヌの工芸」体験「作って鳴ら そう！アイヌの楽器・ムックリ」	二風谷民芸組 合のみなさん		8月17日(日)	31
企画展「アイヌの工芸」映像とお話「アイヌ とヒグマ」	田村将人 葛西真輔	札幌大学特任准教 授 知床財団保護 管理研究係主 任	9月6日(土)	36
企画展「アイヌと工芸」ギャラリートーク	内山大介 阿部綾子	学芸員	9月15日 (月・祝)	42
企画展開連講座「酒田の傘福・会津のカサボ コ」	内山大介	学芸員	11月22日 (土)	41
企画展「みちのくの観音さま」展示解説会	内山大介	学芸員	11月23日(日)	25

	高橋 充			
企画展関連講座「東北各地の観音札所めぐり」	高橋 充	学芸員	12月11日 (木)	65
企画展「みちのくの観音さま」展示解説会	内山大介 高橋 充	学芸員	12月14日(日)	45
特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部 笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」 解説会1	會田容弘 郡山女子大学 短期大学部学 生	郡山女子大学 短期大学部准 教授	2月7日(土)	65
特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部 笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」 解説会2	會田容弘 郡山女子大学 短期大学部学 生	郡山女子大学短 期大学部准教 授	2月14日(土)	8
特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部 笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」 解説会3	會田容弘 郡山女子大学 短期大学部学 生	郡山女子大学 短期大学部准 教授	2月28日(土)	12
特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部 笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」 解説会4	會田容弘 郡山女子大学 短期大学部学 生	郡山女子大学短 期大学部准教 授	3月7日(土)	28
特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部 笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」 記念講演会	會田容弘 郡山女子大学 短期大学部学 生	郡山女子大学短期 大学部准教授	3月8日(日)	145
特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部 笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」 解説会5	會田容弘 郡山女子大学 短期大学部学 生	郡山女子大学短期 大学部准教授	3月8日(日)	85
特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部 笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」 解説会6	會田容弘 郡山女子大学 短期大学部学 生	郡山女子大学短期 大学部准教授	3月14日(土)	7
特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部 笹山原遺跡発掘調査14年の軌跡」 解説会7	會田容弘 郡山女子大学 短期大学部学 生	郡山女子大学 短期大学部准 教授	3月22日(日)	20

(12) ミュージアムイベント

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
玄如節と会津の民謡	玄如節顕彰会		6月15日(日)	62
会津磐梯山・市民盆踊り	会津磐梯山盆 踊り保存会		8月15日(金)	300
夏休みナイトミュージアム	各分野学芸員	学芸員	8月23日(土)	60
クリスマスジャズライブ	Gt.芳賀秀樹 D.伊藤哲郎	芳賀トリオ feat.ナ ルミ	12月20日(土)	145

	B.高橋 修 Vo.ナルミ			
--	------------------	--	--	--

(13) 共催事業

テーマ	主催	担当	期日	参加人数
「森のはこ舟アートプロジェクトキックオフフォーラム～いま、森とアートを語る～」トークセッション「森林文化の再生と未来について」・アーティストトーク「森のはこ舟に何を乗せるか」ほか	森のはこ舟アートプロジェクト（県文化振興課）	川延安直 小林めぐみ	6月21日(土)	150
「森のはこ舟アートプロジェクト放射能勉強会」	森のはこ舟アートプロジェクト（県文化振興課）	川延安直 小林めぐみ	7月29日(火)	20
中央大学学術講演会「縄文時代の地域間交流・東北・関東の遺跡調査から」 講師：中央大学文学部教授小林謙一	中央大学	荒木隆	11月16日(日)	78
放散虫研究集会（研究会）	放散虫研究会	竹谷陽二郎	11月29日(土)	43
2014 放散虫研究集会会津大会普及講演「ミクロな化石が語る地球環境の変遷」	放散虫研究会	竹谷陽二郎	11月30日(日)	45
東北地方民俗学合同研究会・日本民俗学会談話会（学会）	民俗	内山大介	12月6日(土)	102
「ふくしま復興への想いを込めて 2015 from 会津」	会津地方振興局	森 幸彦 二瓶浩伸	3月7日(土)	600
『震災資料を考える1会津セッション』講演会「震災遺産を残す意義」	ふくしま震災遺産保全プロジェクト	高橋 満 森 幸彦	3月15日(日)	238

(14) 後援事業

テーマ	講師	講師所属等	期日	参加人数
会津蒲生氏郷顕彰会「蒲生氏郷ゆかりネットワーク」	新城猪之吉	会津蒲生氏郷顕彰会	9月22日(月)	56
会津史学会歴史文化講演会「地方史研究者へ贈ることば」	阿部隆一	歴史研究者	10月19日(日)	130
会津若松商工会議所女性会 レディース教養講座「ことばの力」	大沼えり子	作家・保護司	11月7日(金)	150
会津史談会公開文化講座「会津の和算」	船尾武彦	学芸員	11月27日(木)	78
子どもの本まつり in 福島	なかがわちひろ 工藤直子	絵本作家	3月22日(日)	80

(※) 企画展・特集展内覧会（友の会）

テーマ	分野	担当	期日	参加人数
写真展「東北－風土・人・暮らし」	美術	川延安直	4月18日(金)	65
企画展「アイヌの工芸」	北海道大学アイ	佐々木利和	7月18日(金)	58

	ヌ・先住民研究センター員教授			
企画展「みちのくの観音さま～人に寄り添うみほとけ～」	歴史・民俗	高橋 充 内山大介	10月31日(金)	103
冬の特集展「発掘ガール・郡山女子大学短期大学部 笹山原遺跡発掘調査 14年の軌跡」	郡山女子大学短期大学部准教授	會田容弘	2月7日(土)	66